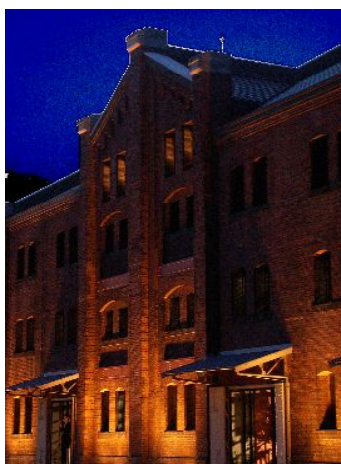
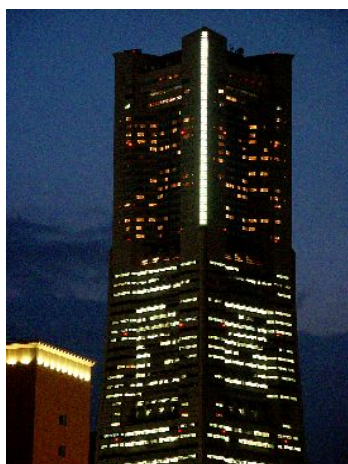


夜景撮影の基本

夜景撮影は、極端に暗く、わずかな光を取り入れるため露出時間が長くなります。カメラは絞り（穴）とシャッタースピードの関係で露出していますから、絞り（穴）を一番大きくしてもシャッタースピードが非常に遅くなります。遅くなるということは、当然カメラブレを起こしてしまいます。手ブレ補正機能がついていても、必ず三脚が必要です。できるだけシャッターボタンを手で押さないで、レリーズを使用するか、露出をAEロックして、セルフタイマーを使って撮影します。

次にホワイトバランスは、夜景モードなどの設定もありますが、温もりを表現するのであれば「晴天」モードで撮影しましょう。「オート」で撮影すると白っぽくなります。下の写真は、「晴天」モードで撮影したものです。露出の明るさは、その人の好みもありますが、暗いものを撮影するときは、一般的にマイナス補正をします。



リアルタイムヒストグラムや撮影後のヒストグラムは、やや極端に左に寄っていることが確認されます。また、しっかり撮影したつもりでもブレている場合が多く、撮影後必ずモニターで拡大して確認しましょう。

三脚は、雲台の部分がクラクラ動かないもので、ちょっとした風でもブレないものを選びます。軽い三脚の場合は、大きめのストーンバックなどを利用して安定性を持たせます。

日の出や夕景では、ホワイトバランスを「曇天」モードにし、赤味を増して撮影します。「オート」で撮影すると、赤味がなくなった写真になります。



花火などの動く被写体は、ISO感度100位、ホワイトバランス「晴天」、できるだけシャッタースピードを遅く（数秒～十数秒）、絞りはf8～11、ピントは無限遠、三脚を使用、どの瞬間にくるか想定してシャッターを切る、という内容で撮影します。